

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	栄養学概論 (Nutrition)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	種村 見名子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間 I 部			(単位)	1	曜日・時限	金曜日 1限

【授業の学習内容】

すべての人の健康保持・増進、スポーツ選手のコンディショニングにおいて土台となる”栄養摂取の基礎知識”を学び、自分自身も食に対する意識を高め、現場でのアドバイスに活かせるような知識の習得をねらいとする。

【実務経験】

2005年より学校給食、病院、行政で乳幼児栄養相談、特定保健指導、病態別栄養指導に従事。こども食堂の運営や食育教室を開催する傍ら、2014年から社会人フットサルチーム、企業所属の卓球選手、V2リーグのバレーボール選手の栄養サポートに携わる。パーソナルジムでの栄養指導も経験し、2023年に公認スポーツ栄養士を取得。

【到達目標】

栄養素の体内での働きを学び、毎日の食事において、組み合わせ・量・タイミングをどのように工夫すれば、健康でより良いコンディショニングづくりができるか、自分の食事と照らし合わせて習得する。

授業計画・内容

1回目	食物の消化吸収とバランスの良い食事の必要性について理解し説明できる
2回目	3大栄養素の働きについて理解し説明できる①
3回目	3大栄養素の働きについて理解し説明できる②
4回目	ビタミンの働きについて理解し説明できる
5回目	ミネラルの働きについて理解し説明できる
6回目	腸内環境と食事の関係について理解し説明できる
7回目	水分の働きと補給方法について理解し説明できる
8回目	食事バランスガイドに基づいた食事構成を理解し説明できる
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習	
---------------	--

評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	定期試験および平常点を加味した総合評価とする
------	---	---	------------------------

受講生への メッセージ	現場で活かせる知識を身につけるため、まずは自分の食生活とコンディションの変化に興味を持ってみよう。
----------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

参考書: 理論と実践 スポーツ栄養学 鈴木志保子・著 日本文芸社
 新版コンディショニングのスポーツ栄養学 樋口満・編著 市村出版

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	運動学 (Kinesiology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	梅村 勇介
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	前・後期
コース	昼間 I 部			(単位)	2	曜日・時限	金曜日 3限

【授業の学習内容】

実務者経験:大学院(鍼灸学博士前期(修士)課程修了)大学院では、筋肉の痛みとトリガーポイントについて臨床・研究を行っていた。
また、はりも鍼灸院にて臨床に関わる。
正常な運動の仕組みについて理解し、運動器疾患を評価する際の異常な運動を見極める力とその原因を分析する思考力を身に付け、本授業修了時には、①各関節の運動学について説明できる。②各関節の正常な運動と異常な運動を見分けることができる。その違いについて説明できる。

【到達目標】

ヒトの身体運動の仕組みについて学び、解剖学・生理学で学んだ筋・骨格系の構造と機能との関係、身体に加わる力との関わり、身体運動の制御機序、運動技能の獲得過程など身体運動に関する諸問題について理解することができる。
＜具体的な目標＞
①各関節構造を理解し説明できる
②各関節構造の運動学について理解し説明できる。

授業計画・内容

1回目	関節構造と機能が理解できる。	16回目	股関節の運動学が理解できる。
2回目	骨格筋の構造と機能が理解できる。	17回目	股関節の運動学が理解できる。
3回目	神経系の構造と機能が理解できる。	18回目	膝関節の運動学が理解できる。
4回目	神経系の構造と機能が理解できる。	19回目	膝関節の運動学が理解できる。
5回目	肩複合体の運動学が理解できる。	20回目	足関節・足部の運動学が理解できる。
6回目	肩複合体の運動学が理解できる。	21回目	足関節・足部の運動学が理解できる。
7回目	肩複合体の運動学が理解できる。	22回目	顔面部の筋について理解できる。
8回目	肘関節・前腕の運動学が理解できる。	23回目	頸部の筋について理解できる。
9回目	肘関節・前腕の運動学が理解できる。	24回目	頸部の筋について理解できる。
10回目	手関節・手指の運動学が理解できる。	25回目	姿勢について理解できる。
11回目	手関節・手指の運動学が理解できる。	26回目	姿勢について理解できる。
12回目	脊柱・体幹の運動学が理解できる。	27回目	歩行について理解できる。
13回目	脊柱・体幹の運動学が理解できる。	28回目	歩行について理解できる。
14回目	脊柱・体幹の運動学が理解できる。	29回目	まとめ
15回目	まとめ	30回目	まとめ

準備学習
時間外学習
この授業には、運動器系における解剖学・生理学で学んだ正常な構造と機能についての理解が必要不可欠です。目標①各関節運動の学習前には、各関節に関連する骨・筋・神経について予習が必要です。
目標②各関節運動は一つの関節のみで動くことは少ない為、必ず周辺の関連する関節構造と運動について復習する必要があります。

評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	・平常点(20%)【各単元終了時の小テスト(20%)出席点(10%)】 ・定期試験(70%)
------	---	--	---

受講生への
メッセージ
我々鍼灸師が治療する領域の中で、運動器疾患は非常に多い割合になります。よって正常な構造に加え正常な運動を理解することは、異常な動作を見極めその原因を考えることは非常に重要となります。運動がくでは、異常運動を見極め、その原因を分析できるようになるために理解しておかなければならない正常な運動とその仕組みについて学びます。ヒトの動きとその仕組みについて興味をもち、将来、「動きをみて、病態を把握できる」よう一緒に楽しく学びましょう

【使用教科書・教材・参考書】

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	病理学 (Pathology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	蒲 貞行
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	水曜日 3限

【授業の学習内容】

担当教員は、臨床検査技師資格(1970年)、日本臨床細胞学会認定の細胞検査士資格、博士(保健学)の称号を持ち、日本臨床細胞学会技師賞の受賞歴がある。
1970年に愛知県対がん協会に入職後、愛知県がんセンター病院～愛知県総合保健センター臨床検査部で病理学、細胞診、血液学、生化学、生理学などの検査に従事した。2004～2015年に群馬大学大学院保健学研究科(准教授)で病理学、細胞診断学の講義と実習、細胞検査士の育成に従事した。その後群馬パース大学と中部大学の客員教授としての教鞭をとった。
病理学概論の講義は前橋東洋医学専門学校(2006～2014年)、2015年より本学で担当している。
病理学は医学の基礎を成す学問であり、その内容は深く広範である。担当教員の上記経験を踏まえ、医療人として修得が望まれる病理学的知識を教授する。授業内容は、国家試験に十分対応できる理解力の養成を主眼として教授する。

【到達目標】

医療人を志す者にとって、病理学は基本的な学問である。
病理学概論では、広く疾病の分類と定義、原因と成り立ち、発生頻度、症状、死など様々な疾病の理解を深める。
病理学概論で学ぶ知識は、国家試験での他の学科(臨床医学など)でも頻出されており、解剖学、生理学などと共に横断的な理解に役立つよう努める。

授業計画・内容			
1回目	【第1章】病理学とは(1) [病理学の意義、観察法、など]		
2回目	【第2章】疾病の一般[自覚～他覚症状、などを修得する]～【第3章】細胞障害[退行性病変](1)[萎縮、などを修得する]		
3回目	細胞障害[退行性病変](2) [細胞質・細胞間質の変性、などを修得する]		
4回目	細胞障害[退行性病変](3) [代謝異常(痛風・糖尿病・老化・壊死・アポトーシス)、などを修得する]		
5回目	細胞障害[退行性病変](4) [黄疸・Rh血液型不適合妊娠、などを修得する]		
6回目	【第4章】循環障害(1) [充血、うっ血のいろいろ、などを修得する]		
7回目	循環障害(2) [血栓と塞栓、門脈圧亢進症、などを修得する]		
8回目	循環障害(3) [浮腫、脱水、熱中症、高血圧症、などを修得する]		
9回目	【1～4章中間試験】		
10回目	【中間試験解説】～【第5章】進行性病変(1) [肥大と過形成、再生、化生、などを修得する]		
11回目	進行性病変(2) [創傷治癒、骨折の治癒、異物処理、移植、などを修得する]		
12回目	【第6章】炎症(1) [炎症の5主徴、などを修得する]		
13回目	炎症(2) [炎症のメカニズム、などを修得する]		
14回目	炎症(3) [炎症の種類、などを修得する]		
15回目	炎症(4) [結核症、ツベルクリン反応、などを修得する]		■後日【5-6章期末試験：専任教員が実施】
16回目	【期末試験解説】～【第7章】免疫とアレルギー(1) [細胞性免疫・液性免疫、などを修得する] → 後期に続く		
準備学習 時間外学習	担当教員による配布テキストは、国家試験に対応できる知識の理解に配慮して準備された内容となっている。 事前にその資料の一読が望ましい。 また、授業後には、授業で担当教員が強調した点を中心に要点を整理し、国家試験問題の解答を試みるのも理解の 習得に効果的である。		
評価方法	【中間試験】: 本試験(80点) +小テスト(20点) 【期末試験】本試験(80点) +小テスト(20点) 【総合評価】: 中間と期末試験 の平均点で評価する	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	当該期間に学んだ内容を国家試験レベルの問題として出題する。 各章の終了ごとに、確認小テストを実施する。 成績は、[中間試験と期末試験の得点率の平均点]を80%、確認小テスト を20%の比率で評価する。 試験はマークシート形式で行う。
受講生への メッセージ	人生、とくに医療人としての人生は生涯学びである。私は、受講生の皆さんが「人生、日々一切が生命現象の探究で あり、そのことを通して人間性を磨くことである」との思いを持って教授する。ぜひ授業だけでなく、日常生活でのすべ てに於いて、「いのちと人間の理解」につながる「学ぶ心」を身につけて頂きたい。 病理学では、様々な分類が用いら れているので、それぞれの疾病、用語の理解をしっかりと習得して頂きたい。		
【使用教科書・教材・参考書】 病理学概論 (第2版) 医歯薬出版株式会社 担当教員による配布テキストおよび国家試験過去問集 (Part 1&2)			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	病理学 (Pathology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	蒲 貞行
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	後期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	水曜日 3限

【授業の学習内容】

担当教員は、臨床検査技師資格(1970年)、日本臨床細胞学会認定の細胞検査士資格、博士(保健学)の称号を持ち、日本臨床細胞学会技師賞の受賞歴がある。
1970年に愛知県対がん協会に入職後、愛知県がんセンター病院～愛知県総合保健センター臨床検査部で病理学、細胞診、血液学、生化学、生理学などの検査に従事した。2004～2015年に群馬大学大学院保健学研究科(准教授)で病理学、細胞診断学の講義と実習、細胞検査士の育成に従事した。その後群馬パース大学と中部大学の客員教授としての教鞭をとった。
病理学概論の講義は前橋東洋医学専門学校(2006～2014年)、2015年より本学で担当している。
病理学は医学の基礎を成す学問であり、その内容は深く広範である。担当教員の上記経験を踏まえ、医療人として修得が望まれる病理学的知識を教授する。 授業内容は、国家試験に十分対応できる理解力の養成を主眼として教授する。

【到達目標】

医療人を志す者にとって、病理学は基本的な学問であり教養科目でもある。
病理学概論では、広く疾病の分類と定義、原因と成り立ち、発生頻度、症状、死など様々な疾病の理解を深める。
病理学概論で学ぶ知識は、国家試験での他の学科(臨床医学など)でも頻出されており、解剖学、生理学などと共に横断的な理解に役立つよう努める。

授業計画・内容

1回目	【第7章：前期の続き】免疫とアレルギー（2）〔免疫不全、自己免疫疾患(特にSLE)、などを修得する〕		
2回目	免疫とアレルギー（3）〔アレルギーの4分類、などを修得する〕		
3回目	【第8章】腫瘍（1）〔腫瘍の概念、癌腫と肉腫の相違点、主な腫瘍の例、などを修得する〕		
4回目	腫瘍（2）〔良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴、などを修得する〕		
5回目	腫瘍（3）〔前癌病変、早期癌の定義、転移、TNM分類、ステージ、などを修得する〕		
6回目	腫瘍（4）〔腫瘍随伴症候群、腫瘍マーカー、ガンの疫学、などを修得する〕		
7回目	【7～8章中間試験】		
8回目	【中間試験解説】～【9章】先天性異常（1）〔遺伝病、染色体異常、などを修得する〕		
9回目	【第9章】先天性異常（2）〔奇形の環境要因、主な先天奇形、などを修得する〕		
10回目	【第10章】病因（1）〔内因と外因（栄養障害）、などを修得する〕		
11回目	病因（2）〔外因（物理的外因・化学的外因）などを修得する〕		
12回目	病因（3）〔薬物耐性菌、日和見感染、菌交代現象、などを修得する〕		
13回目	病因（4）〔感染経路、などを修得する〕		
14回目	病因（5）〔急性腎不全、ショック、貧血、ライソゾーム病、などを修得する〕		
15回目	特別講義 ■後日【9-10章期末試験：専任教員が実施】		
16回目	【期末試験解説】		
準備学習 時間外学習	担当教員による配布テキストは、国家試験に対応できる知識の理解に配慮して準備された内容となっている。 事前にその資料の一読が望ましい。 また、授業後には、授業で担当教員が強調した点を中心に要点を整理し、国家試験問題の解答を試みるのも理解の 習得に効果的である。		
評価方法	【中間試験】：本試験（80点） ＋小テスト（20点） 【期末試験】本試験（80点） ＋小テスト（20点） 【総合評価】：中間と期末試験 の平均点で評価する	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	当該期間に学んだ内容を国家試験レベルの問題として出題する。 各章の終了ごとに、確認小テストを実施する。 成績は、〔中間試験と期末試験の得点率の平均点〕を80%、確認小テスト を20%の比率で評価する。 試験はマークシート形式で行う。
受講生への メッセージ	人生、とくに医療人としての人生は生涯学びである。私は、受講生の皆さんが「人生、日々一切が生命現象の探究で あり、そのことを通して人間性を磨くことである」との思いを持って教授する。ぜひ授業だけでなく、日常生活でのすべて に於いて、「いのちと人間の理解」につながる「学ぶ心」を身につけて頂きたい。 病理学では、様々な分類が用いられ ているので、それぞれの疾病、用語の理解をしっかりと習得して頂きたい。		
【使用教科書・教材・参考書】 病理学概論（第2版）医歯薬出版株式会社 担当教員による配布テキストおよび国家試験過去問集（Part 1&2）			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床医学総論 (Clinical Medicine General Remarks)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	遠藤 久子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	前期・後期
コース	I 部			(単位)	2	曜日・時限	前期 月曜日2限・ 後期 火曜日2限

【授業の学習内容】

現代の医療では、チーム医療の重要性が揚げられているが、医療は西洋医学を中心として実施されることが多い。しかし、東洋療法が有効な患者や疾患が存在するのも事実である。チーム医療を安全かつ効果的に実践するには、全ての医療職が適切な診察法を理解し、主たる症候に精通しておくことが必須である。誤った判断に基づいた医療の提供は、患者に不利益をもたらす。東洋医学である鍼灸であっても、全医療職が必要とする理解と技能を習得し、患者に対し有効な医療を提供するために適切に判断できる能力を修得しなければならない。臨床に必要な診察及び治療に関する医学的知識、検査法や専門用語について理解及び説明ができるようになる。

※鍼灸按摩マッサージ教員免許

【到達目標】

患者を理解し、正しい診断・適切な治療を行うためには医療面接から始まり、入念な身体診察を行うことが大切である。疾病理解と診察技能を習得し、患者に対し有効な医療を提供するための適切な判断ができるようになる。

<具体的な目標>

目標①医療専門用語、疾病が理解できる。目標②適切な診察技能を習得する。

授業計画・内容

1回目	診察の概要が理解できる。	16回目	神経系の診察が理解できる。(1)
2回目	診察の方法・手段が理解できる。(1)	17回目	神経系の診察が理解できる。(2)
3回目	診察の方法・手段が理解できる。(2)	18回目	神経系の診察が理解できる。(3)
4回目	生命徴候の診察ができる。	19回目	運動機能検査が理解できる。(1)
5回目	全身の診察が理解できる。(1)	20回目	運動機能検査が理解できる。(2)
6回目	全身の診察が理解できる。(2)	21回目	徒手検査法の種類と意義が理解できる(1)
7回目	全身の診察が理解できる。(3)	22回目	徒手検査法の種類と意義が理解できる(2)
8回目	全身の診察が理解できる。(4)	23回目	おもな症状の診察法が理解できる。(1)
9回目	局所の診察が理解できる。(1)	24回目	おもな症状の診察法が理解できる。(2)
10回目	局所の診察が理解できる。(2)	25回目	おもな症状の診察法が理解できる。(3)
11回目	局所の診察が理解できる。(3)	26回目	おもな症状の診察法が理解できる。(4)
12回目	局所の診察が理解できる。(4)	27回目	おもな症状の診察法が理解できる。(5)
13回目	その他の診察、臨床検査法が理解できる。(1)	28回目	治療学について理解できる。(1)
14回目	その他の診察、臨床検査法が理解できる。(2)	29回目	臨床心理について理解できる。
15回目	まとめ	30回目	まとめ

準備学習
時間外学習

授業は各単元ごとに進行し、疾患ごとの診察・診断学となる。よって、疾患を説明する臨床医学各論との兼ね合いがあり、疾患理解が不可欠である。授業後には臨床医学各論と併せての復習を必要とする。また、人体の構造・機能の変調から検査数値や身体所見が変化するため、解剖学、生理学の予習も必要となる。

評価方法	1. 定期試験90(%) 2. 平常点 10(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	平常点には出席、授業態度、提出物等が含まれる。
------	------------------------------	--	-------------------------

受講生への
メッセージ

患者像を理解し適切な診断・治療を行うためには、医療面接から始まる入念な身体診察を行うことが大切である。現代医学的な病態把握はチーム医療の他の資格者とのコミュニケーションを図るためにも必須となる。患者の診察をすることにより病態を把握し、「何が問題でこの症状を呈しているのか」を考えることができる能力をしっかりと養いその問題を解決する治療論まで導き出せるようになって欲しい。原因を探りその問題を解決する方法論を考える『問題解決能力』を養うことは人生の様々な局面で必要とされる能力である。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 奈良信雄他著: 臨床医学総論 第2版. 医歯薬出版参考書: 配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床医学各論Ⅰ (Clinical Mwdicine Itemized discussionⅠ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	梅村 勇介
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 3	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時間	金曜日 2限

【授業の学習内容】

臨床活動を行う上で必要である「疾患」に関する知識を、現代医学的な観点から理解する事を目的とする授業である。これは病態の把握や鍼灸治療の不応疾患の鑑別はもちろん、予後の推察や他の医療機関との情報交換を行う際に必要なものであり、鍼灸臨床で診る機会が少ない分野の疾患も含め、広く疾患に関する知識を習得することがこれからの鍼灸師に求められている。

実務者経験:大学院(鍼灸学博士前期(修士)課程修了)大学院では、筋肉の痛みとトリガーポイントについて臨床・研究を行っていた。

SoAir鍼灸院岡町にて臨床に関わる。

【到達目標】

臨床では様々な疾患に直面する。その際にレッドフラッグ、イエローフラッグをしっかりと見極める知識が必要である。基礎分野を理解し疾病の病因病機を理解し説明できるようになる。

【具体的な到達目標】

目標①各疾患に対して説明ができるようにする。

目標②各疾患を持つ特徴を理解し鍼灸治療の適応・不適応を判断できるようになる。

授業計画・内容			
1回目	循環器疾患① 心不全、心臓弁膜症について説明できる		16回目 内分泌疾患① 下垂体疾患について説明できる
2回目	循環器疾患① 心不全、心臓弁膜症について説明できる		17回目 内分泌疾患② 甲状腺疾患について説明できる
3回目	循環器疾患② 不整脈、先天性心疾患、冠動脈疾患について説明できる		18回目 内分泌疾患③ 副腎疾患について説明できる
4回目	循環器疾患③ 動脈疾患、血圧異常について説明できる		19回目 代謝・栄養疾患① 糖代謝異常、脂質代謝異常について説明できる
5回目	消化管疾患① 口腔疾患について説明できる		20回目 代謝・栄養疾患② 尿酸代謝異常、その他の代謝異常症を説明できる
6回目	消化管疾患② 食道疾患、胃・十二指腸疾患について説明できる		21回目 感染症① 細菌感染症について説明できる。
7回目	消化管疾患③ 腸疾患、腹膜疾患について説明できる		22回目 感染症② ウイルス感染症について説明できる。
8回目	肝・胆・膵疾患① 肝臓疾患について説明できる		23回目 感染症③ 性感染症について説明できる。
9回目	肝・胆・膵疾患② 胆道疾患、膵臓疾患について説明できる		
10回目	呼吸器疾患① 感染性呼吸器疾患について説明できる		
11回目	呼吸器疾患② 閉塞性呼吸器疾患について説明できる		
12回目	呼吸器疾患③ 拘束性呼吸器疾患、その他の呼吸器疾患を説明できる		
13回目	腎・尿器疾患① 原発性糸球体腎炎について説明できる		
14回目	腎・尿器疾患② 腎不全 感染症、腫瘍性疾患について説明できる		
15回目	腎・尿器疾患③ 結石症、前立腺疾患について説明できる		
準備学習 時間外学習	この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の理解が必要です。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。□		
評価方法	1. 定期試験(80%) 2. 小テスト(20%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	・平常点(30%)【各単元終了時の小テスト(20%)出席点(10%)】 ・定期試験(70%)
受講生への メッセージ	疾患の成り立ちには、基礎医学をしっかりと身につける必要があります。基礎医学を振り返り疾患の病因病機を考えられるようになる授業展開をしていきます。暗記するのではなく、イメージを膨らませ、考えられるように一緒に取り組みましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 臨床医学各論教科書、臨床医学各論追加資料、解剖学教科書、生理学教科書、入門解剖人体解剖学、配布プリント			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床医学各論Ⅰ (Clinical Mwdicine Itemized discussionⅠ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	梅村 勇介
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 3	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	金曜日 2限
【授業の学習内容】 臨床活動を行う上で必要である「疾患」に関する知識を、現代医学的な観点から理解する事を目的とする授業である。これは病態の把握や鍼灸治療の不応疾患の鑑別はもちろん、予後の推察や他の医療機関との情報交換を行う際に必要なものであり、鍼灸臨床で診る機会が少ない分野の疾患も含め、広く疾患に関する知識を習得することがこれからの鍼灸師に求められている。 実務者経験:大学院(鍼灸学博士前期(修士)課程修了)大学院では、筋肉の痛みとトリガーポイントについて臨床・研究を行っていた。 SoAir鍼灸院岡町にて臨床に関わる。							
【到達目標】 臨床では様々な疾患に直面する。その際にレッドフラッグ、イエローフラッグをしっかりと見極める知識が必要である。基礎分野を理解し疾病の病因病機を理解し説明できるようになる。 [具体的な到達目標] 目標①各疾患に対して説明ができるようにする。 目標②各疾患を持つ特徴を理解し鍼灸治療の適応・不応を判断できるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	循環器疾患① 心不全、心臓弁膜症について説明できる	16回目	内分泌疾患① 下垂体疾患について説明できる
2回目	循環器疾患① 心不全、心臓弁膜症について説明できる	17回目	内分泌疾患② 甲状腺疾患について説明できる
3回目	循環器疾患② 不整脈、先天性心疾患、冠動脈疾患について説明できる	18回目	内分泌疾患③ 副腎疾患について説明できる
4回目	循環器疾患③ 動脈疾患、血圧異常について説明できる	19回目	代謝・栄養疾患① 糖代謝異常、脂質代謝異常について説明できる
5回目	消化管疾患① 口腔疾患について説明できる	20回目	代謝・栄養疾患② 尿酸代謝異常、その他の代謝異常症を説明できる
6回目	消化管疾患② 食道疾患、胃・十二指腸疾患について説明できる	21回目	感染症① 細菌感染症について説明できる。
7回目	消化管疾患③ 腸疾患、腹膜疾患について説明できる	22回目	感染症② ウイルス感染症について説明できる。
8回目	肝・胆・膵疾患① 肝臓疾患について説明できる	23回目	感染症③ 性感染症について説明できる。
9回目	肝・胆・膵疾患② 胆道疾患、膵臓疾患について説明できる		
10回目	呼吸器疾患① 感染性呼吸器疾患について説明できる		
11回目	呼吸器疾患② 閉塞性呼吸器疾患について説明できる		
12回目	呼吸器疾患③ 拘束性呼吸器疾患、その他の呼吸器疾患を説明できる		
13回目	腎・尿器疾患① 原発性糸球体腎炎について説明できる		
14回目	腎・尿器疾患② 腎不全 感染症、腫瘍性疾患について説明できる		
15回目	腎・尿器疾患③ 結石症、前立腺疾患について説明できる		
準備学習 時間外学習	この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の理解が必要です。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。□ □		
評価方法	1. 定期試験(80%) 2. 小テスト(20%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	・平常点(30%)【各単元終了時の小テスト(20%)出席点(10%)】 ・定期試験(70%)
受講生への メッセージ	疾患の成り立ちには、基礎医学をしっかりと身につける必要があります。基礎医学を振り返り疾患の病因病機を考えられるようになる授業展開をしていきます。暗記するのではなく、イメージを膨らませ、考えられるように一緒に取り組みましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 臨床医学各論教科書、臨床医学各論追加資料、解剖学教科書、生理学教科書、入門解剖人体解剖学、配布プリント			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	東洋医学概論Ⅱ (Oriental Medicine IntroductionⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	伊藤昌幸
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	前期・後期
コース	I 部					曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 東洋医学(中医学)を実践していくために必要な考え方・知識を理解する。 『東洋医学臨床論』の講義で扱う種々の病証について、発生機序および治療についての理解が容易になるようにする。 実務者経験:教員養成科終了。個人宅、介護施設などへの往診治療中心の治療院いせやを開業し臨床に携わる。							
【到達目標】 ①東洋医学の生理観を理解できる。 ②病因論・病理論・病証論・診断論を理解できる。 ③生理物質・臓腑にどのような関連性があるのか理解できる。 ④知識・概念の習得に留まらず、臨床に活かせるようにできる。							

授業計画・内容				
1回目	生体物質・臓腑の復習		16回目	弁証論治の概要を理解できる。
2回目	四診の種類・方法について理解できる。		17回目	弁証の種類について理解できる。①
3回目	望診について理解できる。		18回目	弁証の種類について理解できる。②
4回目	舌診について理解できる。①		19回目	標本・主客について理解できる。
5回目	舌診について理解できる。②		20回目	論治の概要を理解できる。
6回目	聞診について理解できる。		21回目	治則について理解できる。
7回目	問診について理解できる。①		22回目	治法について理解できる。
8回目	問診について理解できる。②		23回目	生体物質の病証に対する治法を理解できる。
9回目	問診について理解できる。③		24回目	臓腑の病態に対する治法を理解できる。
10回目	問診について理解できる。④		25回目	補瀉法について理解できる。
11回目	問診について理解できる。⑤		26回目	難経六十九難について理解できる。
12回目	切診について理解できる。①		27回目	各刺法について理解できる。①
13回目	脈診について理解できる。①		28回目	各刺法について理解できる。②
14回目	脈診について理解できる。②		29回目	各刺法について理解できる。③
15回目	まとめ		30回目	まとめ
準備学習 時間外学習	1年次の基礎の内容がとても大事になってきますので、復習をお願いします。			
評価方法	・平常点(20%) ・期末試験(筆記)(80%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	①平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・提出物の期限・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ②期末試験は筆記試験を行う。 ③成績は①+②の合計とする。	
受講生への メッセージ	学習にあたっては”臨床に応用する”という学習意識をたえず持ってください。自分で考え、自分で対処でき、自分で問題解決できるようになるために、常に「考え」ながら学習する習慣と態度を養ってください。			
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：東洋療法学校協会編：「新版東洋医学概論」、医道の日本社 配布資料				

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	はりきゅう理論Ⅱ (Acupuncture and Moxibustion TheoryⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	池田 晋太郎
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	月曜 3限

【授業の学習内容】

鍼灸施術を行う上で、鍼灸刺激が生体にどのような影響を与え、どのような効果を引き出すのかを理論的に学習する。本講義では、現代医学的観点から鍼灸刺激により起こりうる生体反応について、基礎医学的知識や臨床現場で行われる鍼灸治療の症例を通して、鍼灸による物理的・化学的・生物学的刺激が生体機能にどのような変化を与えるかを学習する。

※実務経験

鍼灸教員養成課程修了。

鍼灸整骨院にて鍼灸治療に従事し、また登録販売者として医薬品の提案・販売業務にも携わる。

【到達目標】

- ①鍼灸刺激の受容と伝導について説明できる。
- ②はり・きゅうの各々の施術により、生体にどのような変化が起こるかを理解し、症状に対する治療計画が運用できる。
- ③鍼灸による鎮痛作用や機序について説明ができ、鎮痛機構を発現させる刺鍼刺激の方法や適正量を考案できる。
- ④鍼灸施術による効果・効能を患者に対して分かりやすく説明することができる。

授業計画・内容

1回目	鍼灸治効機序を理解するために必要な基礎知識(神経生理学)を説明できる
2回目	鍼鎮痛の経路、発現メカニズム、適応症について説明できる
3回目	鍼灸刺激による生体反応について説明できる
4回目	自律神経系に及ぼす鍼灸刺激の影響について説明できる
5回目	生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響について説明できる
6回目	鍼灸治効メカニズムによる各種生体反応学説について説明できる
7回目	疼痛性疾患に対する鍼灸治療の症例を通して、鎮痛機構を発現させる治療法を組み立てることができる①
8回目	疼痛性疾患に対する鍼灸治療の症例を通して、鎮痛機構を発現させる治療法を組み立てることができる②

準備学習 時間外学習	生体機能の基礎に関する理解が必要になります。1年次に学習した生理学の神経系の復習をしておいてください。
---------------	---

評価方法	1. 定期試験(80%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(20%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験を100点満点で80%の評価、指定された課題に対するレポート作成を20%として成績評価とする。
------	--	--	---

受講生への メッセージ	鍼灸治療を受けた際に、なぜ痛みがなくなるのか、愁訴が改善されているのか疑問に思ったことはありますか。鍼灸治療を受けられる方の多くは、身体のどこかに慢性的に痛みを抱えています。現代医学的観点からこの仕組みを紐解き、自身でも疼痛緩和の鍼灸治療ができるように最善策を探してみましょう。
----------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

はりきゅう理論 第3版(医道の日本社)

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	病態生理学 (Pathophysiology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	遠藤 久子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	前期・後期
コース	I 部			(単位)	2	曜日・時限	火曜日1限目

【授業の学習内容】

疾患についての病態生理学的変化を調べ説明できるようになる。疫学、病理、病態生理、診断基準、治療法について自ら学び、臨床に於いて患者の病態を理解・判断するために必要な知識と調べる方法を習得する。
※鍼灸按摩マッサージ教員免許

【到達目標】

1. 代表的な器別機能障害に関する病態生理について理解できる。
2. 病態生理の考え方、情報の整理の仕方について学び、患者に対する理解を深め、治療および患者を支援する上で必要な知識を身につける。
3. 疫学、病理、病態生理、診断、治療法について説明でき、臨床に必要な情報を自ら収集し理解する態度を身につける。

授業計画・内容

1回目	病態生理とはどういう学問かを理解できる。	16回目	消化器(上部消化管)について基本的な構造と働きを説明できる。
2回目	検査方法1: 基本的な検体検査について説明できる。	17回目	消化器疾患(上部消化管)について病態を説明できる。
3回目	検査方法1: 基本的な検体検査について説明できる。	18回目	消化器(下部消化管)について基本的な構造と働きを説明できる。
4回目	検査方法2: 血液生化学検査について説明できる。(小テスト)	19回目	消化器疾患(下部消化管)について病態を説明できる。(小テスト6)
5回目	検査方法3: 生理機能検査について説明できる。	20回目	消化器(肝・胆・膵)について基本的な構造と働きを説明できる。
6回目	検査方法4: 画像診断について理解できる。	21回目	消化器疾患(肝・胆・膵)について病態を説明できる。
7回目	検査方法4: 画像診断について理解できる。(小テスト2)	22回目	内分泌・代謝系疾患について病態を説明できる。(小テスト7)
8回目	脳神経系疾患について病態を説明できる。	23回目	内分泌・代謝系疾患について病態を説明できる。
9回目	脳神経系疾患について病態を説明できる。	24回目	内分泌・代謝系疾患について病態を説明できる。
10回目	脳神経系疾患について病態を説明できる。(小テスト3)	25回目	内分泌・代謝系疾患について病態を説明できる。(小テスト8)
11回目	呼吸器疾患について病態を説明できる。	26回目	腎・泌尿器について基本的な構造と働きを説明できる。
12回目	呼吸器疾患について病態を説明できる。(小テスト4)	27回目	腎・泌尿器疾患について病態を説明できる。(小テスト9)
13回目	その他の診循環器系疾患について病態を説明できる。	28回目	血液・造血器疾患、感染症疾患について病態を説明できる。
14回目	循環器系疾患について病態を説明できる。(小テスト5)	29回目	血液・造血器疾患、感染症疾患について病態を説明できる(小テスト10)
15回目	復習	30回目	復習

準備学習
時間外学習

授業形態は反転授業でグループワーク形式で行う。そのためこの授業を受け、理解を深めるには授業前までに授業範囲を予習し、読めない字は事前に調べておくこと。授業後は自分でノートを作り理解を深める努力をすること。、随時指示されるテキストの次回授業部分と関連する生理学・解剖学の教科書を事前に読み、予習してくること。分からない用語や内容について自分で調べるまたはメモしてくることが必要となる。

評価方法	1. 小テスト 90(%) 2. 平常点 10(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	小テストにより評価する。その他、出席・授業態度・課題も評価の対象とする。遅刻・欠席・早退、課題の不提出は減点対象となる。
------	-------------------------------	--	--

受講生への
メッセージ

この科目は1年次の解剖学、生理学の復習をベースとして2年生で学ぶ臨床医学総論・臨床医学各論・病理学の理解を深める役割をします。1年で学んだ基礎医学に2年生で学ぶ臨床医学(臨床医学各論、臨床医学総論、病理学)を結び付けていくことで病気の理解や病態把握ができるようになっていきます。疾患に対する理解を深めることで患者像の理解につながります。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 奈良信雄他著: 臨床医学総論 第2版. 医歯薬出版参考書: 配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床経穴学Ⅰ (Clinical Acupuncture PointsⅠ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	河合 芽生
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	2	曜日・時限	木曜日 1限

【授業の学習内容】 鍼灸臨床において経験することが多い疾患・病態について理論とともに西洋医学的な治療法、東洋医学的な治療法を学び、適切に施術を行うことができる。 東洋医学臨床論にリンクして各疾患に対する治療法と考え方について学ぶ。 ※実務経験:鍼灸教員養成課程終了 東京・名古屋にてダイエット専門鍼灸院にて臨床に携わる。 現在:ひつじのはり小舎 鍼灸マッサージ院にて臨床に携わる。
--

【到達目標】 東洋医学概論・東洋医学臨床論で学んだ知識を臨床に活かすことができるようになる。 弁証論治により導きだした経穴を組合せ(処方)を自分で考えるようになる。 処方がどのような意味で構成されているか、またどのような治療目的を果たすのかが理解できる。 病態の変化に応じて処方の組合せを変化させることができる。

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション:臨床経穴学Ⅰの進め方、経絡経穴とは(1年次の総合復習)		
2回目	要穴(井穴・榮穴・兪穴)/流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
3回目	要穴(兪穴・経穴・合穴)/流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
4回目	要穴(原穴)/流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
5回目	要穴(郄穴)/流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
6回目	要穴(絡穴)/流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
7回目	要穴(募穴・兪穴)/流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
8回目	要穴(四総穴・八会穴・下合穴)/流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
9回目	要穴(八脈交会穴)/流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
10回目	経穴の組み合わせ /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
11回目	顔面部の経穴① /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
12回目	顔面部の経穴② /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
13回目	首肩の経穴① /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
14回目	首肩の経穴② /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。		
15回目	復習		
準備学習 時間外学習	1年次で修得した経絡経穴概論Ⅰ・解剖学Ⅰの内容の復習 各自ノート作成		
評価方法	1. 定期試験(70%) 2. 小テスト(30%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験および小テストにより総合的に評価する。
受講生への メッセージ	2年次は、より臨床に繋がる授業が増えていきます。はり一本、きゅう一壮施す際に、各経穴に位置する解剖学的構造物を理解する必要があるため、1年次に修得した内容の復習も兼ねて経穴と解剖をリンクさせながら授業を進めていきます。楽しみながらひとつひとつ臨床とつなげていきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版(医道の日本社) 参考書:経穴マップ(医歯薬出版株式会社)etc. 資料:配布プリント			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床経穴学 I (Clinical Acupuncture Points I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	河合 芽生
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	前期
コース	昼間 I 部			(単位)	2	曜日・時限	木曜日 1限

【授業の学習内容】

鍼灸臨床において経験することが多い疾患・病態について理論とともに西洋医学的な治療法、東洋医学的な治療法を学び、適切に施術を行うことができる。
 東洋医学臨床論にリンクして各疾患に対する治療法と考え方について学ぶ。
 ※実務経験:鍼灸教員養成課程終了
 東京・名古屋にてダイエット専門鍼灸院にて臨床に携わる。
 現在:ひつじのはり小舎 鍼灸マッサージ院にて臨床に携わる。

【到達目標】

東洋医学概論・東洋医学臨床論で学んだ知識を臨床に活かすことができるようになる。
 弁証論治により導きだした経穴を組合せ(処方)を自分で考えるようになる。
 処方がどのような意味で構成されているか、またどのような治療目的を果たすのかが理解できる。
 病態の変化に応じて処方の組合せを変化させることができる。

授業計画・内容

1回目	上肢の経穴① /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。
2回目	上肢の経穴② /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。
3回目	上肢の経穴③ /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。
4回目	下肢の経穴① /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。
5回目	下肢の経穴② /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。
6回目	下肢の経穴③ /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。
7回目	腹部の経穴① /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。
8回目	腹部の経穴② /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。
9回目	背部の経穴① /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。
10回目	背部の経穴② /流注、各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。
11回目	奇穴 /各経穴部位、解剖学的構造物との関係を理解し説明できる。
12回目	グループワーク
13回目	グループワーク
14回目	まとめ
15回目	復習
準備学習 時間外学習	1年次で修得した経絡経穴概論Ⅰ・解剖学Ⅰの内容の復習 各自ノート作成
評価方法	1. 定期試験(70%) 2. 小テスト(30%) 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格 定期試験および小テストにより総合的に評価する。
受講生への メッセージ	2年次は、より臨床に繋がる授業が増えていきます。はり一本、きゅう一壮施す際に、各経穴に位置する解剖学的構造物を理解する必要性があるため、1年次に修得した内容の復習も兼ねて経穴と解剖をリンクさせながら授業を進めていきます。楽しみながらひとつひとつ臨床とつなげていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版(医道の日本社)
 参考書:経穴マップ(医歯薬出版株式会社)etc.
 資料:配布プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	東洋医学臨床論Ⅰ (Oriental Medicine Clinical theoryⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	伊藤昌幸
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	前期・後期
コース	Ⅰ部					曜日・時限	水曜 2限
【授業の学習内容】 『東洋医学概論』で学んだ東洋医学の生理観・疾病観・診断論・治療論に基づいて、東洋医学独自の考え方をどのように、具体的に臨床に応用できるかを学ぶ。 経穴が持つ効能を理解し、弁証論治により導いた治則に対して、適切な経穴を選択できるようにする。 実務者経験：教員養成科終了。個人宅、介護施設などへの往診治療中心の治療院を開業し臨床に携わる。							
【到達目標】 ①適切な病態把握ができるようになる。 ②上記に基づいて、適切な経穴が選択できるようになる。 ③鍼・灸の使い分けができるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	経穴の効能を理解できる。①	16回目	食欲不振について東洋医学的な考え方が理解できる。
2回目	経穴の効能を理解できる。②	17回目	肥満・痩せについて東洋医学的な考え方が理解できる。
3回目	経穴の効能を理解できる。③	18回目	悪心・嘔吐について東洋医学的な考え方が理解できる。
4回目	経穴の効能を理解できる。④	19回目	便秘・下痢について東洋医学的な考え方が理解できる。
5回目	経穴の効能を理解できる。⑤	20回目	歯痛について東洋医学的な考え方が理解できる。
6回目	東洋医学における疼痛の機序を理解できる。	21回目	咳嗽について東洋医学的な考え方が理解できる。
7回目	頭痛について東洋医学的な考え方が理解できる。	22回目	哮喘について東洋医学的な考え方が理解できる。
8回目	顔面痛について東洋医学的な考え方が理解できる。	23回目	脱毛について東洋医学的な考え方が理解できる。
9回目	胸痛について東洋医学的な考え方が理解できる。	24回目	耳鳴・難聴について東洋医学的な考え方が理解できる。
10回目	腹痛について東洋医学的な考え方が理解できる。	25回目	排尿障害について東洋医学的な考え方が理解できる。
11回目	眼精疲労について東洋医学的な考え方が理解できる。	26回目	勃起障害について東洋医学的な考え方が理解できる。
12回目	気分障害について東洋医学的な考え方が理解できる。	27回目	倦怠感について東洋医学的な考え方が理解できる。
13回目	めまいについて東洋医学的な考え方が理解できる。	28回目	発熱・冷えについて東洋医学的な考え方が理解できる。
14回目	動悸・睡眠障害について東洋医学的な考え方が理解できる。	29回目	のぼせについて東洋医学的な考え方が理解できる。
15回目	まとめ	30回目	まとめ
準備学習 時間外学習	『東洋医学概論』で学んだ生理観・病理観などが理解できていないと、『臨床論』の内容が理解できません。しっかり復習をお願いします。		
評価方法	・平常点(20%) ・期末試験(筆記)(80%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	①平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・提出物の期限・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ②期末試験は筆記試験を行う。 ③成績は①+②の合計とする。
受講生への メッセージ	学習にあたっては“臨床に応用する”という学習意識をたえず持ってください。自分で考え、自分で対処でき、自分で問題解決できるようになるために、常に「考え」ながら学習する習慣と態度を養ってください。		
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:「新版東洋医学臨床論」、南江堂 配布資料			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	東洋医学臨床論Ⅱ (Oriental Medicine Clinical theoryⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	伊藤昌幸
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	後期
コース	I 部					曜日・時限	金曜 3限

【授業の学習内容】

『東洋医学概論』で学んだ東洋医学の生理観・疾病観・診断論・治療論に基づいて、東洋医学独自の考え方をどのように、具体的に臨床に応用できるかを学ぶ。
経穴が持つ効能を理解し、弁証論治により導いた治則に対して、適切な経穴を選択できるようにする。

実務者経験:教員養成科終了。個人宅、介護施設などへの往診治療中心の治療院を開業し臨床に携わる。

【到達目標】

各症候・疾病に対して、より適切な病態把握、より有効な臨床応用、そして自分自身で東洋医学的に考がえられることを目標とする。

各症候の概略・病因病機・主症および随伴症の特徴が説明できる。

適切な病態把握ができるようになる。

上記に基づいて、適切な経穴が選択できるようになる。

鍼・灸の使い分けができるようになる。

授業計画・内容

1回目	浮腫について東洋医学的な考え方が理解できる。
2回目	痒み・発疹について東洋医学的な考え方が理解できる。
3回目	婦人科疾患について東洋医学的な考え方が理解できる。①
4回目	婦人科疾患について東洋医学的な考え方が理解できる。②
5回目	婦人科疾患について東洋医学的な考え方が理解できる。③
6回目	小児疾患について東洋医学的な考え方が理解できる。
7回目	高齢者疾患について東洋医学的な考え方が理解できる。
8回目	まとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習
時間外学習
『東洋医学概論』で学んだ生理観・病理観などが理解できていないと、『臨床論』の内容が理解できません。しっかり復習をお願いします。

評価方法	・平常点(20%) ・期末試験(筆記)(80%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	①平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・提出物の期限・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ②期末試験は筆記試験を行う。 ③成績は①+②の合計とする。
------	-----------------------------	--	--

受講生への
メッセージ
学習にあたっては"臨床に応用する"という学習意識をたえず持ってください。自分で考え、自分で対処でき、自分で問題解決できるようになるために、常に「考え」ながら学習する習慣と態度を養ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:新版東洋医学臨床論 南江堂

参考書:配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	鍼灸診断学Ⅰ (Acupuncture and Moxibustion PathognomyⅠ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	早野 徳俊
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	木曜日 3限

【授業の学習内容】

鍼灸臨床に必要な東洋医学的診察法(四診等)を学び、証を立てることが出来るようになる。

※実務経験:教員養成課程修了。

2003年から臨床に携わり東洋医学療法の一つ「経絡治療」で運動器疾患をはじめ内科婦人科疾患も扱う。

【到達目標】

東洋医学的な診断(証を立てる)に至る診察法を理解することで臨床施術を効果的に行うことができる。

- ①望診:視覚情報を得る。
- ②聞診:聴覚・嗅覚情報を得る。
- ③問診:東洋医学的な病態情報を得る。
- ④切診:触覚情報を得る。

授業計画・内容			
1回目	東洋医学的診察法(四診)と西洋医学的診察法の違いについて理解できる。		
2回目	望診① 視覚情報収集について理解できる。		
3回目	望診② 舌診について理解できる。		
4回目	聞診 聴覚・嗅覚情報収集について理解できる。		
5回目	問診① 寒熱について理解できる。		
6回目	問診② 飲食について理解できる。		
7回目	問診③ 睡眠について理解できる。		
8回目	問診④ 二便について理解できる。		
9回目	問診⑤ 情志・生活環境について理解できる。		
10回目	問診⑥ その他の症状(部位別・性別・年齢別)について理解できる。		
11回目	切診① 腹診について理解できる。		
12回目	切診② 切経・背診の触診法について理解できる。		
13回目	切診③ 脈診(脈状診)について理解できる。		
14回目	切診④ 脈診(六部定位脈診)について理解できる。		
15回目	試験(口頭試問)・解説		
準備学習 時間外学習	実技演習後には、自身や周りの者に診察を実地し知識を定着させましょう。		
評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験(口頭試問)90%、実技の取り組み姿勢等平常点10%で評価する
受講生への メッセージ	施術を求める患者の病やお悩みを明らかにすべく、自分自身の身体症状も含め見つめなおしてみましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
教科書:ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK (株)滋慶出版、東洋医学概論参考資料:配布プリント・練習問題等			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	はり実技Ⅱ (Acupuncture Practical Skills Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中里 亮太
学科	鍼灸科	授業 形態	実技 実習	総時間	90	開講区分	前期
コース	I 部			(単位)	3	曜日・時限	水曜日 1限
【授業の学習内容】							
毎回の課題となる解剖学的知識について復習し、触診のイメージ・方法を習得する。触診のコツを学んだら、実際に課題の筋肉等へ刺鍼を行う。刺鍼後、鍼通電療法を試み、適切に行えているか評価・理解する。毎回の授業の刺鍼を意識して取り組むことで、全身の様々な部位、深さ、方向への刺鍼が可能となり、鍼通電療法を習得していくことができる。							
実務経験：鍼灸教員養成課程修了 (鍼灸養成校の附属鍼灸院にて2年間・教員養成校在学中、鍼灸接骨院にて2年間従事)							
【到達目標】							
1年次に学習した解剖学の視点から、筋・骨・神経の繋がりを理解し、目的とする筋に対して安全かつ適切な刺鍼を行うことができる。また、低周波鍼通電療法の基本的な方法を習得することとともに、目的の筋への刺鍼が為されているかの自己評価を述べるができる。							

授業計画・内容					
1回目	授業の進め方、衛生操作、患者誘導などの確認を行う。		16回目	上肢の末梢神経に鍼通電を行うことができる。	
2回目	教員へ刺鍼を行い各種操作を確認することができる。		17回目	下肢の末梢神経に鍼通電を行うことができる。	
3回目	低周波鍼通電について概要を理解することができる。		18回目	皮下結合組織に鍼通電を行うことができる。	
4回目	腰部の筋に鍼通電を行うことができる。		19回目	試験対策	
5回目	殿部の筋に鍼通電を行うことができる。		20回目	試験対策	
6回目	大腿前面の筋に鍼通電を行うことができる。		21回目	定期試験①	
7回目	大腿後面の筋に鍼通電を行うことができる。		22回目	定期試験②	
8回目	下腿外側の筋に鍼通電を行うことができる。		23回目	試験解説	
9回目	下腿後面の筋に鍼通電を行うことができる。				
10回目	肩上部の筋に鍼通電を行うことができる。				
11回目	肩甲間部の筋に鍼通電を行うことができる。				
12回目	側頸部の筋に鍼通電を行うことができる。				
13回目	肩関節後面の筋に鍼通電を行うことができる。				
14回目	前腕屈筋群に鍼通電を行うことができる。				
15回目	前腕伸筋群に鍼通電を行うことができる。				
準備学習 時間外学習	解剖学の復習(課題となる筋の起始・停止・作用・支配神経)を行うこと。 1年次に比べ、より実践的な内容になります。毎回の実習で少しでも上達することを目指して頑張りましょう。				
評価方法	・平常点(20%) ・期末試験(実技)(80%)	100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	①平常点は欠席・遅刻・早退、忘れ物、提出物、授業態度を減点方式とする。 ②試験は実技試験を行う。 ③成績は①+②の合計とする。		
受講生への メッセージ	基礎があつての応用です。この授業では、1年生に引き続き、実技の基礎の手を養う時間として有意義なものにしましょう。				
【使用教科書・教材・参考書】 図解針灸臨床手技マニュアル：医歯薬出版 配布資料					

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名(英)	はり美技Ⅱ (Acupuncture Practical Skills Ⅱ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中里 亮太
学科	鍼灸科	授業形態	実技実習	総時間	90	開講区分	後期
コース	I 部			(単位)	3	曜日・時限	水曜日 2限
【授業の学習内容】 運動器領域の愁訴を現代鍼灸の立場から把握することを目的とする。そのために、身体の観察方法を理解し、各疾患の現代医学的治療を理解し、安全かつ適切な鍼灸治療法を体得を目標とする。 実務経験:鍼灸教員養成課程修了 (鍼灸養成校の附属鍼灸院にて2年間・教員養成校在学中、鍼灸接骨院にて2年間従事)							
【到達目標】 効果的な鍼施術を安全かつ確実に行う能力を身につけることを目的とし、各疾患・症候の原因と局所解剖を理解すること、鑑別力と病態把握の精度を上げること、治療に必要な部位への的確な刺激が行えるようになることが目標である。また、疾患を持つ相手への施術を想定するため、医療従事者としての相手への気遣い、目配り、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。							

授業計画・内容			
1回目	肩こりの病態を理解し施術を行うことができる ①	16回目	膝関節痛の病態を理解し施術を行うことができる ①
2回目	肩こりの病態を理解し施術を行うことができる ②	17回目	膝関節痛の病態を理解し施術を行うことができる ②
3回目	肩関節痛の病態を理解し施術を行うことができる ①	18回目	膝関節痛の病態を理解し施術を行うことができる ②
4回目	肩関節痛の病態を理解し施術を行うことができる ②	19回目	試験対策
5回目	肩関節痛の病態を理解し施術を行うことができる ③	20回目	試験対策
6回目	頸頸腕痛の病態を理解し施術を行うことができる ①	21回目	定期試験①
7回目	頸頸腕痛の病態を理解し施術を行うことができる ②	22回目	定期試験②
8回目	頸頸腕痛の病態を理解し施術を行うことができる ③	23回目	試験解説
9回目	腰痛の病態を理解し施術を行うことができる ①		
10回目	腰痛の病態を理解し施術を行うことができる ②		
11回目	腰痛の病態を理解し施術を行うことができる ③		
12回目	腰下肢の病態を理解し施術を行うことができる ①		
13回目	腰下肢の病態を理解し施術を行うことができる ②		
14回目	腰下肢の病態を理解し施術を行うことができる ③		
15回目	腰下肢の病態を理解し施術を行うことができる ④		
準備学習 時間外学習	臨床医学総論、鍼灸診断学Ⅰ、認定実技試験対策などの主に「評価」に関して復習を行うこと。 1年次に比べ、より実践的な内容になります。毎回の実習で少しでも上達することを目指して頑張りましょう。		
評価方法	・平常点(20%) ・期末試験(実技)(80%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	①平常点は無断の欠席・遅刻・早退、忘れ物、提出物、授業態度を減点方式とする。 ②試験は実技試験を行う。 ③成績は①+②の合計とする。
受講生への メッセージ	基礎があつての応用です。この授業では、1年生に引き続き、実技の基礎の手を養う時間として有意義なものにしましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 図解針灸臨床手技マニュアル:医歯薬出版 配布資料			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	きゅう実技 II (Moxibustion Practical Skills II)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	河合 芽生
学科	鍼灸科	授業 形態	実習	総時間	90	開講区分	前期
コース	昼間 I 部			(単位)	3	曜日・時限	木曜日 2限

【授業の学習内容】
鍼灸臨床において経験することが多い疾患・病態について理論とともに西洋医学的な治療法、東洋医学的な治療法を学び、適切に施術を行うことができる。 東洋医学臨床論にリンクして各疾患に対する治療法と考え方について学ぶ。 ※実務経験:鍼灸教員養成課程終了 東京・名古屋にてダイエット専門鍼灸院にて臨床に携わる。 現在:ひつじのはり小舎 鍼灸マッサージ院にて臨床に携わる。

【到達目標】
東洋医学概論・東洋医学臨床論で学んだ知識を臨床に活かすことができるようになる。 弁証論治により導きだした経穴を組合せ(処方)を自分で考えるようになる。 処方がどのような意味で構成されているか、またどのような治療目的を果たすのかが理解できる。 病態の変化に応じて処方の組合せを変化させることができる。

授業計画・内容			
1回目	衛生操作、患者誘導などの確認	16回目	経脈の流注を用いた治療ができる。③
2回目	上肢の経穴への施灸ができるようになる①	17回目	経脈の流注を用いた治療ができる。④
3回目	上肢の経穴への施灸ができるようになる②	18回目	経脈の流注を用いた治療ができる。⑤
4回目	上肢の経穴への施灸ができるようになる③	19回目	経脈の流注を用いた治療ができる。⑥
5回目	上肢の経穴への施灸ができるようになる④	20回目	復習
6回目	下肢の経穴への施灸ができるようになる①	21回目	実技試験①
7回目	下肢の経穴への施灸ができるようになる②	22回目	実技試験②
8回目	下肢の経穴への施灸ができるようになる③	23回目	再試験 講評
9回目	下肢の経穴への施灸ができるようになる④		
10回目	体幹への経穴への施灸ができるようになる①		
11回目	体幹への経穴への施灸ができるようになる②		
12回目	体幹への経穴への施灸ができるようになる③		
13回目	体幹への経穴への施灸ができるようになる④		
14回目	経脈の流注を用いた治療ができる。①		
15回目	経脈の流注を用いた治療ができる。②		
準備学習 時間外学習	解剖学・経穴学・東洋医学概論の復習を行うこと。 灸をひねる練習を行うこと。		
評価方法	・平常点(20%) ・期末試験(実技) (80%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	①平常点は欠席(-2点)・遅刻・早退・忘れ物・提出物の期限・授業態度(各-1点)を減点方式で計算していく。ただし減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ②期末試験は実技試験を行う。 ③成績は①+②の合計とする。
受講生への メッセージ	1年次に習得したお灸の基礎を忘れないよう2年次に生かしていきましょう。 火を扱う授業になるので、取り扱いや片づけなど周りの配慮を忘れないようにしてください。 臨床実習にむけて、患者さんの病態把握、治療方針ができるようにしていきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	きゅう実技 II (Moxibustion Practical Skills II)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	河合 芽生
学科	鍼灸科	授業 形態	実習	総時間	90	開講区分	後期
コース	昼間 I 部			(単位)	3	曜日・時間	木曜日 2限

【授業の学習内容】

鍼灸臨床において経験することが多い疾患・病態について理論とともに西洋医学的な治療法、東洋医学的な治療法を学び、適切に施術を行うことができる。
 東洋医学臨床論にリンクして各疾患に対する治療法と考え方について学ぶ。
 ※実務経験:鍼灸教員養成課程終了
 東京・名古屋にてダイエット専門鍼灸院にて臨床に携わる。
 現在:ひつじのはり小舎 鍼灸マッサージ院にて臨床に携わる。

【到達目標】

東洋医学概論・東洋医学臨床論で学んだ知識を臨床に活かすことができるようになる。
 弁証論治により導きだした経穴を組合せ(処方)を自分で考えるようになる。
 処方がどのような意味で構成されているか、またどのような治療目的を果たすのかが理解できる。
 病態の変化に応じて処方の組合せを変化させることができる。

授業計画・内容

1回目	気虚証に用いる経穴への施灸ができるようになる①	16回目	臓腑病証に用いる経穴への施灸ができるようになる④
2回目	気虚証に用いる経穴への施灸ができるようになる②	17回目	症例問題①
3回目	気滞証に用いる経穴への施灸ができるようになる①	18回目	症例問題②
4回目	気滞証に用いる経穴への施灸ができるようになる②	19回目	症例問題③
5回目	血虚証に用いる経穴への施灸ができるようになる①	20回目	復習
6回目	血虚証に用いる経穴への施灸ができるようになる②	21回目	実技試験①
7回目	血瘀証に用いる経穴への施灸ができるようになる①	22回目	実技試験②
8回目	血瘀証に用いる経穴への施灸ができるようになる②	23回目	再試験 講評
9回目	腎精不足証に用いる経穴への施灸ができるようになる		
10回目	陽虚証に用いる経穴への施灸ができるようになる①		
11回目	陽虚証に用いる経穴への施灸ができるようになる②		
12回目	陰虚証に用いる経穴への施灸ができるようになる		
13回目	臓腑病証に用いる経穴への施灸ができるようになる①		
14回目	臓腑病証に用いる経穴への施灸ができるようになる②		
15回目	臓腑病証に用いる経穴への施灸ができるようになる③		

準備学習
時間外学習
解剖学・経穴学・東洋医学概論の復習を行うこと。
灸をひねる練習を行うこと。

評価方法	・平常点(20%) ・期末試験(実技) (80%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	①平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・提出物の期限・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ②期末試験は実技試験を行う。 ③成績は①+②の合計とする。
------	---------------------------------	--	--

受講生への
メッセージ
1年次に習得したお灸の基礎を忘れないよう2年次に生かしていきましょう。
火を扱う授業になるので、取り扱いや片づけなど周りの配慮を忘れないようにしてください。
臨床実習にむけて、患者さんの病態把握、治療方針ができるようにしていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	認定実技試験対策 (Certification Pratical Exam Measures)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	岸本 優介・池田 晋太郎
学科	鍼灸科	授業 形態	実習	総時間	60	開講区分	後期
コース	昼間 I 部			(単位)	2	曜日・時限	水曜 1限
【授業の学習内容】							
この授業では3年次に実施される臨床実習に向けて、医療面接や現代医学的な検査法などを実技として行っていく。 臨床現場では医療面接のスキルや検査法の知識が問われるため、患者の病態を適切に把握するためにはスムーズな医療面接や検査法が行えることが必須条件となる。 ※実務経験 池田：鍼灸教員養成課程修了。鍼灸整骨院にて鍼灸治療に従事し、また登録販売者として医薬品の提案・販売業務にも携わる。 岸本：大学院(鍼灸学博士前期(修士)課程修了)では、整形外科分野における臨床鍼灸学を専攻し、臨床・研究を行っていた。また、大学病院内(外来・病棟)での鍼灸施術および運動機能特化型デイサービスでの機能訓練指導などの臨床に関わる。							
【到達目標】							
臨床実習で患者の病態把握に必要な医療面接および検査法についてその意義を理解し、制限時間内に適切に行うことができる。 ①相手に不快感を与えることのない医療面接・接遇力を身につける。 ②現代医学的な検査法(血圧測定・腱反射検査・関節可動域検査・徒手筋力検査)を正しい手順で行うことができる。 ③滋慶認定実技審査の医療面接と検査法に合格できる。							

授業計画・内容			
1回目	滋慶共通認定実技試験の目的と審査基準を理解できる。	16回目	表在性反射検査の意義を理解し、適切に行うことができる。
2回目	医療面接の基本と全体の流れについて理解できる。	17回目	病的反射検査の意義を理解し、適切に行うことができる。
3回目	医療面接における技法と基本態度について理解できる。	18回目	頸部の徒手検査の意義を理解し、適切に行うことができる。
4回目	医療面接の内容を適切にカルテに記載できる。	19回目	上肢部の徒手検査の意義を理解し、適切に行うことができる。
5回目	医療面接デモンストレーションにより実際の流れを理解できる。	20回目	体幹部の徒手検査の意義を理解し、適切に行うことができる①
6回目	医療面接ロールプレイング演習を適切に行うことができる①	21回目	体幹部の徒手検査の意義を理解し、適切に行うことができる②
7回目	医療面接ロールプレイング演習を適切に行うことができる②	22回目	下肢部の徒手検査の意義を理解し、適切に行うことができる。
8回目	医療面接ロールプレイング演習を適切に行うことができる③	23回目	症例について学び、疾患モデルを作成・準備することができる①
9回目	触診法による血圧測定の意義を理解し、適切に行うことができる。	24回目	症例について学び、疾患モデルを作成・準備することができる②
10回目	聴診法による血圧測定の意義を理解し、適切に行うことができる。	25回目	症例について学び、疾患モデルを作成・準備することができる③
11回目	関節可動域検査の意義を理解し、適切に行うことができる①	26回目	OSCEロールプレイング演習により、診断・検査が適切にできる①
12回目	関節可動域検査の意義を理解し、適切に行うことができる②	27回目	OSCEロールプレイング演習により、診断・検査が適切にできる②
13回目	関節可動域検査の意義を理解し、適切に行うことができる③	28回目	OSCEロールプレイング演習により、診断・検査が適切にできる③
14回目	関節可動域検査の意義を理解し、適切に行うことができる④	29回目	OSCE試験
15回目	腱反射検査の意義を理解し、適切に行うことができる。	30回目	OSCE試験
準備学習 時間外学習	①医療面接の技法を理解し繰り返し練習する。 ②血圧測定の持つ臨床的な意義について予習し、繰り返し練習する。 ③反射検査に関わる反射弓を覚え、繰り返し練習する。 ④各徒手検査の目的と意義を予習し、繰り返し練習する。 ⑤主要な関節の運動方向、関節可動域を予習し、繰り返し練習する。		
評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(20%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(80%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	OSCE試験および小テスト・課題提出などの平常点も加味する。
受講生への メッセージ	鍼灸臨床では医療面接により患者の病態を把握し、必要な検査を行うことで患者の病態を絞ることができ、適切な鍼灸治療につなげることができます。そのためには繰り返し練習を行うことが必要となります。 また直接患者と対面して行う初めの診察事項であるため、自身がどのような先生に治療してほしいかもしっかりと考え、技術だけでなく、患者にとって安心して受けることができる雰囲気作りにも努めていきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
滋慶認定実技審査対応 ずっと使える！鍼灸臨床BookK(滋慶教育科学研究所) リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社) 臨床医学総論(医歯薬出版株式会社)			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床実習Ⅰ (Clinical PracticeⅠ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	遠藤 久子・杉本 佳史
学科	鍼灸科	授業 形態	実習	総時間	45	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	火曜日 1・2限
【授業の学習内容】 基本技術のスキルを上げるとともに、適切に治療効果を出すために必要な見立て、手技、技術を構築していく。鍼灸治療の可能性と奥深さを知り、引き出しを増やし臨床に活かしていくことを目的とする。 遠藤：教員養成課程終了 杉本：実務者経験：博士後期課程終了 博士(鍼灸学) 大学病院・大学附属鍼灸院・老人保健施設・特別養護高齢者施設・専門学校附属鍼灸院にて臨床に従事。コエル鍼灸院を経営。アスリート治療、難治性疾患、婦人科・泌尿器疾患など臨床経験は多岐にわたる。臨床歴は20年以上。地域医療に関するワークショップ、研究、教育、講演、臨床を通じて鍼灸の普及に務めている。							
【到達目標】 安全で衛生的な基本の臨床技能はもちろんのこと、鍼灸臨床における様々な過程を理解し、患者の愁訴から得られる情報を整理し、必要な診断をおこない、結果が出る治療技術の習得を目指す。							

授業計画・内容			
1回目	鍼灸臨床の技術の確認① フローで考えることの重要性	16回目	下肢に対する鍼灸治療②
2回目	鍼灸臨床の技術の確認②	17回目	部位特有の鍼灸治療①
3回目	骨盤内臓器(膀胱・前立腺・子宮など)領域に対する鍼灸治療①	18回目	部位特有の鍼灸治療②
4回目	骨盤内臓器領域に対する鍼灸治療② 鍼をあやつる技術を学ぶ	19回目	海外における鍼灸治療①
5回目	陰部神経領域に対する鍼灸治療①	20回目	海外における鍼灸治療②
6回目	陰部神経領域に対する鍼灸治療② 長鍼を用いる技術を学ぶ	21回目	鍼灸臨床技術確認
7回目	膝周囲の鍼灸治療①	22回目	鍼灸臨床技術確認
8回目	膝周囲の鍼灸治療②	23回目	臨床実習総括
9回目	上肢への鍼灸治療① 肘(テニス肘・野球肘など)	24回目	
10回目	上肢への鍼灸治療② 手首(腱鞘炎など)	25回目	
11回目	股関節に対する鍼灸治療①	26回目	
12回目	股関節に関する鍼灸治療②	27回目	
13回目	臨床に活かす灸治療①	28回目	
14回目	臨床に活かす灸治療②	29回目	
15回目	下肢に対する鍼灸治療①	30回目	
準備学習 時間外学習	・触診技術向上のための、自他の身体に対する触診練習 ・直刺、横刺・斜刺・透熱灸・知熱灸・糸状灸の反復基礎練習 ・授業の復習を必ず行う(一回やっただけでは決して身につかないため) ・臨床医学各論など疾患についての知識を増やしておく。		
評価方法	1. 臨床技術確認試験(80%) 2. 実習時の態度等(20%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	実技試験の結果はもちろんであるが、臨床に必要な気構え・心構え・身構え(身だしなみを含む)も評価の対象となる
受講生への メッセージ	様々な領域で用いられる鍼灸技術を知ることによって鍼灸臨床の幅広さを知ることができます。多岐にわたりとても充実した内容となるため、積極的に授業に参加してください。真摯に研鑽を積むことにより必ず、治療効果の出せる鍼灸師になれます！		
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶認定実技審査対応 ずっと使える！鍼灸臨床BookK(滋慶教育科学研究所) 教科書：臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)、新版東洋医学概論(医道の日本社)、新版経絡経穴概論(医道の日本社)			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	総合医学特論Ⅱ (Holistic Medical Theory Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	池田 晋太郎 高橋 菜摘
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	通 年
コース	I 部					曜日・時限	不定期

【授業の学習内容】

研究発表の種類と方法を学び、実際に研究発表を行う。
 模擬店を出店し、企画・運営・コミュニケーションの方法を学習する。
 スポーツを通じて、チームワークや運動が体に与える変化について学習する。
 経穴要穴表を年度内に完璧に書けるようになる。
 実力試験を通して、2年次までのはり師・きゅう師国家試験範囲の実力を養うことを目的とする。
 実務者経験：鍼灸教員養成課程修了

【到達目標】

はり師、きゅう師を業とするにあたり、臨床で患者の病態の理解を深めるための資料の検索ができる。臨床に必要な技術・知識を研鑽していく意識を持つことができる。
 自らの経験や知識を定量化することができる。多職種連携や患者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。
 経穴の要穴をすべて覚えて書きだすことができる。
 2年次までのはり師・きゅう師国家試験範囲の実力を養うことを目的とする。

授業計画・内容

1回目	全日本鍼灸学会に参加し、鍼灸分野に対する知識を養うことができる。①
2回目	全日本鍼灸学会に参加し、鍼灸分野に対する知識を養うことができる。②
3回目	生体制御学会に参加し、医学分野に対する知識を養うことができる。
4回目	模擬店を出店し、企画・運営を円滑に行うことができる。
5回目	スポーツ大会に参加し、チーム内の交流を円滑に行うことができる。
6回目	学会発表に出席し、発表・研究方法を学ぶとともに学内研究発表会(若きクリエイター展)にて実際に発表を行うことができる。
7回目	解剖見学実習に参加し人体構造の立体的な理解を深めると同時に医療従事者としての倫理観を育むことができる。
8回目	実力試験を実施し、2年次までのはり師・きゅう師国家試験範囲の実力を養うことができる。
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習	自らテーマを決め、研究発表をするために必要なステップ(情報収集、実験、文献検索、まとめ、資料作成)を行う。 1・2年次で学んだ知識を整理・復習し、実力試験に臨めるよう取り組む。 日々の復習を行い、経穴に対する知識を定着させる。
---------------	---

評価方法	1. 出席 2. 要穴テスト 3. 実力試験 4. 授業態度・取り組み等	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	①欠席は2回まで。 ②要穴試験、実力試験を行う。
------	---	--	-----------------------------

受講生への メッセージ	この科目は、研究発表を通して業界や他職種の業界人とのコミュニケーションをはかること。チーム医療に参加するのに必要なコミュニケーション力を養うこと。卒後、臨床に進むにあたり自ら学び、研鑽する意識を養うことを目標にします。 2年次のうちに基礎医学の復習を行い苦手分野は早めに対策をしていきましょう。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

適宜、必要と思われるもの。

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	こどもコミュニケーション論	必修選 択	必修	年次	2年	担当教員	楠田 英代 池田 晋太郎 高橋 菜摘
学科	(Children's Communication Theory)	授業形 態	講義	総時間	15	開講区分	前期
コース	鍼灸科			(単位)	1	曜日・時限	月曜 3限

【授業の学習内容】

授業内容: 子どもの身体的・精神的発達について理解を深め子どもとのかかわり方や保護者対応について学ぶ。
グループワークやロールプレイなどから、実践に必要とされる知識や技術を身につける。
実務者経験: これまで幼稚園・保育所にて乳児から幼児までの保育経験、保育士養成校にて学生教育にあたっていた。

【到達目標】

- ①子どもの身体的・精神的発達について理解するとともに関わり方を学ぶ。
- ②子どもを取り巻く環境について理解し、必要な支援や援助の仕方を知る。
- ③特別な配慮を必要とする子どもや多様な子どもの理解を深める。
- ④保護者との関係づくりに求められる知識やスキルを身につけ、実践できるようにする。

授業計画・内容			
1回目	乳幼児期の身体的発達について《身体の発育と運動機能の育ち》		
2回目	乳幼児期の精神的発達について《言葉・認識・思考の育ち》		
3回目	子どもを取り巻く環境の変化《遊びの発展を知る》		
4回目	子どもの保健《アレルギーや感染症を知る》		
5回目	子どもの心理《感情の分化と気持ちのコントロールの仕方について知る》		
6回目	子どもの心理《かかわりのはじまりと関係構築について》		
7回目	子どもの心理《かかわりのはじまりと関係構築について 実践》		
8回目	子育て支援を考える《相談援助の姿勢を身につける》		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
16回目			
準備学習時間外学習	毎授業時に簡単な課題を示します。		
評価方法	1. 授業態度 50% 2. 授業レポート 30% 3. まとめ・発表 20%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生へのメッセージ	毎授業時にグループワークやロールプレイを行います。前半で学んだ知識の確認や振り返り、積極的な意見交換を通して深い学びに繋げていきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 適宜、プリントを配布します。			